

Previous Doc Next Doc Go to Doc#
First Hit

L10: Entry 28 of 69

File: DWPI

Feb 14, 1992

DERWENT-ACC-NO: 1992-101648

DERWENT-WEEK: 199213

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Heat resistant insulating varnish for enamel-insulated winding - obtd. from thermoplastic polyamide, organo titanium cpd., phenol-formaldehyde resin, poly:isocyapolyester-amideimide! deriv.

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE	CODE
FURUKAWA ELECTRIC CO LTD	FURU

PRIORITY-DATA: 1990JP-0154874 (June 12, 1990)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> <u>JP 04045180 A</u>	February 14, 1992		004	

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 04045180 A	June 12, 1990	1990JP-0154874	

INT-CL (IPC): C09D 5/25; C09D 161/06; C09D 175/00; C09D 177/00; C09D 179/08

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 04045180A

BASIC-ABSTRACT:

Varnish is obtd. by compounding 0.1-7 pts. wt. thermoplastic polyamide, 0.3-10 pts. wt. organic titanium cpd. such as titanic acid ester and titanium chelate cpd., 0.3-15 pts. wt. phenol-formaldehyde resin and 1-13 pts. wt. polyisocyanate adduct with 100 pts. wt. polyester amideimide modified with tris(2-hydroxyethyl) isocyanurate, and adding this cpd. to organic solvent.

USE/ADVANTAGE - Heat resistant insulating varnish is used to improve the appearance of enamel-insulated winding. The use of the varnish for covering the conductor (wire) gives rise to smooth coat having corrugated creases and tiny lumps on the surface even when the varnish is dried at high temp. in the hot-air circulating stove. The varnish has good heat resistance in the heat shock test and storage stability (pot life). It also has good refrigerant resistance.

CHOSEN-DRAWING: Dwg. 0/0

TITLE-TERMS: HEAT RESISTANCE INSULATE VARNISH ENAMEL INSULATE WIND OBTAIN

THERMOPLASTIC POLYAMIDE ORGANO TITANIUM COMPOUND POLYPHENOL POLYFORMALDEHYDE RESIN
POLY POLYAMIDEIMIDE DERIVATIVE

DERWENT-CLASS: A28 A82 A85 G02 L03 M13

CPI-CODES: A05-C03; A05-F01E2; A08-D01; A10-E24; A12-E02A; G02-A05A; L03-A; L03-
A01B3; M13-H05;

UNLINKED-DERWENT-REGISTRY-NUMBERS: 1644U

POLYMER-MULTIPUNCH-CODES-AND-KEY-SERIALS:

Key Serials: 0004 0016 0020 0035 0037 0038 0072 0073 0218 0224 0231 1277 1283 1289
1290 1319 1351 1357 1359 1384 1458 1462 1517 1762 1995 2020 2022 2051 2065 2148
2150 2151 2152 2198 2201 2207 2299 2300 2318 2378 2386 2393 2427 2438 2506 2507
2550 2551 2559 2574 2575 2600 2608 2661 2667 2727 2742 3003 3107 3182 3217 3281

Multipunch Codes: 014 038 04- 040 07& 075 080 081 09& 106 13- 140 141 143 146 15&
15- 151 155 163 164 166 168 169 170 171 175 177 180 209 210 213 214 215 216 231 236
239 250 263 27- 278 311 316 331 332 335 341 344 345 346 359 398 402 408 409 414 427
431 44& 444 473 477 48- 50& 506 508 509 51& 512 532 536 537 54& 541 548 575 597 602
604 608 623 627 681 684 689 693 694 724 726 001 002 003 003 003 007 007 021 022 023
127 128 128 129 131 135 135 135 138 145 146 151 176 199 202 202 205 206 214 215 215
215 219 220 220 229 230 231 237 238 239 242 243 250 250 255 255 255 257 257 260 260
266 266 272 274 300 310 318 321 328

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1992-047304

[Previous Doc](#) [Next Doc](#) [Go to Doc#](#)

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A) 平4-45180

⑫ Int. Cl.⁵
C 09 D 179/08 5/25
175/00 179/08
// (C 09 D 179/08 177/00
161:06)

識別記号 庁内整理番号
PMB A 8830-4 J
PHP 7602-4 J
PMC B 8830-4 J

⑬ 公開 平成4年(1992)2月14日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 耐熱性絶縁塗料

⑮ 特願 平2-154874

⑯ 出願 平2(1990)6月12日

⑰ 発明者 鈴木 重治 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号 古河電気工業株式会社内

⑱ 出願人 古河電気工業株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目6番1号

⑲ 代理人 弁理士 長門 侃二

明細書

1. 発明の名称

耐熱性絶縁塗料

2. 特許請求の範囲

トリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミド100重量部に対して、熱可塑性ポリアミド0.1~7重量部、チタン酸エステル及びチタンのキレート化合物などの有機チタン化合物0.3~10重量部、フェノール系ホルムアルデヒド樹脂0.3~1.5重量部、ポリイソシアネートアグリツ1~13重量部を配合し、これを有機溶剤に添加してなることを特徴とする耐熱性絶縁塗料。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、エナメル巻線用の耐熱性絶縁塗料に関する。

(従来の技術)

従来、エナメル巻線用の絶縁塗料としては、B種ポリエステル線用のポリエステルエナメル塗料

が汎用されている。

しかし、近年エナメル巻線の用途が多様化するにつれ、巻線に対しても耐熱性や耐冷媒性(耐フロンガス性)などのより一層の向上が望まれている。とりわけ、B種ポリエステル線では、環境保護の見地からR-12やR-22等の冷媒の代替品として注目を浴びているR-134aに対する耐久性が十分ではなく、この点からもより耐冷媒性に優れた巻線用の絶縁塗料が要求されている。

このためB種ポリエステル線に比べて耐熱性や耐冷媒性が優れているH種耐熱線、特にトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミド絶縁塗料を塗布焼付したH種耐熱線の需要増大が見込まれている。

(発明が解決しようとする課題)

トリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミド塗料を塗布焼付したエナメル線は、耐熱性が優れているものの、その一方で、製線時においてエナメル線表面にブツや波肌などの肌荒れが生じ、製品外観が低下す

るという問題がある。エナメル線の製造においては、通常、熱風循環方式の製造炉が用いられているが、耐熱性がよい絶縁塗料はより高温かつ高風速で処理される。このため耐熱性が高い絶縁塗料を使用するものはほどエナメル線表面の肌荒れが起き易いという事態を招いている。

本発明は、製品外観が良く、耐冷媒性も優れているエナメル線用の耐熱性絶縁塗料を提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段及び作用)

上記目的を達成するため本発明は、トリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミド100重量部に対して、熱可塑性ポリアミド0.1~7重量部、チタン酸エステル及びチタンのキレート化合物などの有機チタン化合物0.3~10重量部、フェノール系ホルムアルデヒド樹脂0.3~1.5重量部、ポリイソシアネートアダクツ1~1.3重量部を配合し、これを有機溶剤に添加してなることを特徴とする耐熱性絶縁塗料を提供する。

ラ2-エチルヘキシルチタネート、ブチルチタネートダイマーなどを挙げることができ；チタンのキレート化合物としては、チタンアセチルアセトネート、チタンラクテートエチルエステル、チタントリエタノールアミネート、チタンオクチレングリコールなどのチタンのキレート化合物を挙げることができる。また、ポリオキシチタンステアレート、ポリイソプロポキシチタンステアレートなどのチタンアシレート類も併用することができる。

有機チタン化合物としてはチタン酸エステルとチタンのキレート化合物とを併用することが好ましく、その配合割合は特に制限されないが、チタン酸エステルよりも、チタンのキレート化合物の割合が高いほうが好ましい。

チタン酸エステルとチタンのキレート化合物の配合量は両成分の合計量として、ポリエステルアミドイミド100重量部に対して0.3~10重量部である。配合量が0.3重量部未満であると目的とする電線の特性レベルを得るための生産速度が

本発明の耐熱性絶縁塗料のベース樹脂となるトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミドは、公知の方法で製造されるポリエステルアミドイミドとトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレートとの反応により得られたものである。

熱可塑性ポリアミドとしては、6ナイロン、6.6ナイロン、6.9ナイロン、8ナイロン、10ナイロン、11ナイロン、12ナイロン、4.6ナイロン、可溶性共重合ナイロンなどを挙げることができる。

熱可塑性ポリアミドの配合量は、ポリエステルアミドイミド100重量部に対して0.1~7重量部である。配合量が0.1重量部未満であると焼付皮膜の外観改良の効果が薄く、7重量部を超えると耐熱性、機械的特性などが低下するようになる。好ましい配合量は2~5重量部である。

本発明で用いるチタン酸エステルとしては、テトライソプロピルチタネート、テトラローブチルチタネート、テトラステアリルチタネート、テト

著しく低いものとなり、10重量部を超えると得られる電線の一部の特性は不充分なものとなり、目的を達成することができない。好ましい配合量は3~8重量部である。

フェノール系ホルムアルデヒド樹脂としては、フェノール、クレゾール、キシレノール、レゾルシンなどのフェノール類とホルムアルデヒドから得られる樹脂及びそれらの変性樹脂を挙げることができる。このフェノール樹脂はノボラック型又はレゾール型のいずれでもよいが、塗料の貯蔵安定性を考慮した場合ノボラック型のほうが好ましい。

フェノール樹脂の配合量は、ポリエステルアミドイミド100重量部に対して0.3~1.5重量部である。配合量が0.3重量部未満であると目標とする外観作業性及び充分な特性を有する電線が得られず、1.5重量部を超えると得られる電線の一部の特性が目標レベルに達しないものとなる。好ましい配合量は1~1.2重量部である。

ポリイソシアネートアダクツ類としては、ジフェニルメタンジイソシアネート/トリメチロール

特開平4-45180 (3)

プロパンのクレゾールアダクト、トリレンジソシアネートの三量体のフェノールアダクトなどを挙げることができる。

ポリイソシアネートアダクト類の配合量は、ポリエステルアミドイミド100重量部に対して1～13重量部である。配合量が1重量部未満であると製線時の外観作業性が望ましいレベルでは達せず、13重量部を超えると得られる電線の一部の特性が目標値から掛け離れたものとなる。好みの配合量は3～10重量部である。

有機溶剤としては、ナフサ類、フェノール、クレゾール、キシレノールなどのクレゾール酸類、ジメチルホルムアミド、N-メチル-2-ピロリドンなどの窒素系溶剤などを挙げることができる。

有機溶剤の配合量は特に制限されないが、線引き作業性を考慮すると、固形分濃度が20～50%で、25℃におけるB型粘度計による粘度が500～10000cPの範囲になるように配合することが好みである。

次に、熱可塑性ポリエステル30g及びテトラブチルチタネート0.5gを添加し、200～230℃で3時間加熱し、解重合反応させた。

その後、ジメチルテレフタレート1.0mol、エチレングリコール0.55mol及びトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート0.5molを反応させてなるトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエチレンテレフタレート60gを添加し、200～230℃で3時間加熱し、反応させた。

こうして得られたベース樹脂となるトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミドをクレゾール酸で溶解し、ナフサで希釈して36重量%の溶液とした(25℃におけるB型粘度計による粘度は2400cP)。このベース樹脂溶液を用い、第1表に示す組成(重量部表示)の各成分を配合して実施例1～3及び比較例1～4の絶縁塗料を得た。

これらの実施例1～3及び比較例1～4の絶縁塗料を、約1.0mm径の銅導体に、550℃、風速

本発明の耐熱性絶縁塗料には上記成分の他にも、本発明の目的を達成しない範囲内でオクチル酸亜鉛、ナフテン酸コバルトなどの金属石鹼を配合することができる。

本発明の絶縁塗料のベース樹脂であるトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミドは優れた耐熱性を有している。また、本発明の絶縁塗料の一成分である熱可塑性ポリアミドは、電線に塗料を塗布後、焼き付けた場合において、焼付皮膜の肌荒れ防止作用がある。

(実施例)

まず、下記の方法によりトリス(2-ヒドロキシエチル)イソシアヌレート変性ポリエステルアミドイミドを製造した。

クレゾール酸中で、トリメリト酸無水物134.4g(0.7mol)、イソフタル酸49.8g(0.3mol)及びジフェニルメタンジイソシアネート187.5g(0.75mol)を、100～230℃で8時間加熱し、縮合反応させた。

4m/sec及び炉長4mの熱風循環炉中、26m/minの速度で10回塗布し、皮膜厚さが40μmであるJIS1種のエナメル巻線を得た。これらの巻線について第1表に示す試験をした。結果を第1表に示す。

(以下余白)

第 1 表

	実施例1	実施例2	実施例3	比較例1	比較例2	比較例3	比較例4
ベース樹脂溶液 (固形分量)	100	100	100	100	100	100	100
可溶性共重合ナイロン	2.0	1.2	4.0	2.0	2.0	2.0	—
TBT ¹⁾	0.9	0.6	1.5	3.0	—	0.9	0.9
TOG ²⁾	5.0	3.4	6.5	—	5.0	5.0	5.0
CT ³⁾ ステーブル ⁴⁾	6.0	3.0	8.0	—	6.0	6.0	8.0
クレゾール樹脂	4.0	3.0	9.0	4.0	4.0	—	4.0
導体径 (a/s)	0.998	0.998	0.997	0.998	0.998	0.997	0.997
皮膜厚さ (μm)	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0
BDV (IV)	12.4	12.5	12.8	12.5	12.4	12.6	12.3
熱劣化後 BDV (IV)	8.3	8.0	8.8	8.0	8.4	8.2	8.0
軟化温度 (°C)	305	306	372	300	392	391	307
ヒートショック	1d	1d	1d	1d	1d	1d	1d
外観 (目視)	変化なし	変化なし	変化なし	やや波肌が 生じた	波肌が生じた	小さな波肌が 生じた	波肌が生じた
耐冷性	良好	良好	良好	良好	良好	良好	良好
絶縁塗料を製造後1月 保管後に線引きした場 合の目視による外観	変化なし	変化なし	変化なし	波肌が生じた	波肌が生じた	小さな波肌と 波肌が生じた	小さな波肌と 波肌が生じた

- 1) テトラブチルチタネート
- 2) チタンオクチレングリコラート
- 3) ポリイソシアネートアダクツ

(発明の効果)

本発明の耐熱性絶縁塗料を用いて導体に線引きし、熱風循環炉等で高温下乾燥させた場合でも、表面に波肌やブツなどによる肌荒れが生じることがない。更に、ヒートショック試験による耐熱性も優れている。即ち、従来、耐熱性が高いものほど型線工程において巻線表面に肌荒れが生じ易いという問題が本発明の耐熱性絶縁塗料により解決されたものである。

また、本発明の耐熱性絶縁塗料を、製造後一定期間保持した後において線引き処理をした場合でも、製造当初と同様の結果が得られ、貯蔵安定性(ボットライフ)が優れていることも確認された。

更に、本発明の耐熱性絶縁塗料は耐熱性や耐冷性など、巻線用の絶縁塗料として要求される特性も優れている。

出願人 古河電気工業株式会社

代理人 弁理士 長門 侃二

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.